

田沼肇全活動・著作集編集委員会編
『田沼肇全活動
付・田沼肇著作集 [DVD]』

紹介者：早川征一郎

田沼肇先生が逝去されたのは、2000年8月9日、享年74歳であった（五十嵐仁「田沼肇先生のご逝去を悼む」本誌2000年11月号）。それから10年有余を経て、このたび『田沼肇全活動』が刊行された。田沼祥子夫人をはじめ、この編集・刊行に直接、間接に関わった多くの関係者の長年の尽力に敬意を表するとともに、このたびの出版を心から祝福したい。

本誌編集部から執筆を依頼され、私は即座に快諾した。生前、交流の深かった田沼肇先生の足跡を私なりに確かめたいと思ったこと、同時に、この優れた刊行物について広く紹介することで、私の任を果たすことができたら幸いだと考えたからである。

1. 『田沼肇全活動 付・田沼肇著作集 [DVD]』
のユニークさとアイデアの斬新さ

『田沼肇全活動 付・田沼肇著作集 [DVD]』は、『著作集』、『追悼集』の二つの性格を同時に併せ持つ点でユニークであるが、それも単なる『著作集』、『追悼集』ではない。

『田沼肇全活動 付・田沼肇著作集 [DVD]』という全タイトルが意味するように、『追悼集』部分は『田沼肇全活動』というタイトルのもとで本体とされ、『著作集』部分はDVD版として、

本体に所収される形で刊行された。通常の『追悼集』部分は、研究者としての学問的営為だけでなく、それに留まらない幅広い社会的諸活動を含むものとして、『田沼肇全活動』というユニークなタイトルが付けられ、学究生活と社会的諸活動の両面にわたって追想されている。そのうえ、『著作集』部分が、紙媒体ではなく、DVD版として収録されているのも、今日の時代に合ったアイデアの斬新さを感じさせる。

2. 『田沼肇全活動』の目次構成と感想

『田沼肇全活動』の目次構成を示すと以下のとおりである。

はじめに（梅津勝恵記）

I 部 田沼肇全活動著作・執筆年表（年誌と執筆者・藤新太郎ほか4名）

II 部

労組、民主的組織の講師・助言者活動など（年誌と執筆者・伊藤和子ほか4名）

原水爆禁止・被爆者援護・第五福竜丸保存の活動（年誌と執筆者・赤松宏一ほか3名）

日本フィル・日本フィル協会闘争年表（年誌、その間に田沼肇執筆文紹介）

「ハート」を大事にした人（田沼祥子）
平和と革新をめざす東京懇話会の活動（年誌）

この手に革新統一を！（角倉洋子）

田沼肇の学究生活について（竹下睿麒）
田沼肇先生の研究業績について（嶺 学）
「二世」の息苦しさ（田沼正平）

肇さんありがとう（田沼祥子）

あとがき（田沼祥子記）

ここでは紙数の関係で、I 部、II 部とも、さらに詳しい各執筆者名とその表題については省

略し、あとにゆずる。この目次構成は、「はじめに」によれば、「理論分野に相当する《著作・執筆年表》を第Ⅰ部とし、その他の実践活動をⅡ部とした」（6頁）という。したがって、「Ⅱ部は田沼の本領ともいえる運動の分野になる」（6頁）ともいう。

ただ、ここで目次構成について、紹介者の感想をいえば、田沼肇先生の研究者生活とその研究成果・業績が生涯の基本を形成していること、その基礎に立脚しつつ、それと相互作用の関係にある「実践活動」「運動の分野」があったのであるから、「田沼肇の学究生活について」と「田沼肇先生の研究業績について」は、そのウェイトを真正に評価するという意味では、これを新しく第Ⅱ部とするか、あるいは第Ⅲ部とするなどして、上記の第Ⅱ部から切り離すか、あるいは第Ⅰ部と合体するのも一案であったかと思われる。

3. 『田沼肇全活動』の主な内容

まず第Ⅰ部 田沼肇 全活動 著作・執筆年表によって、1946年以降の各年の出来事と田沼肇先生の活動および主に著作・執筆活動を理解することができる。さらにその第Ⅰ部に収録された以下の方々を追想文で、主として、生い立ちから旧制武蔵高校、東大、商工省調査統計局時代までを知ることができる。藤新太郎「田沼肇の執筆活動について」、上田誠吉「田沼肇について」、高野源明「慎獨寮時代」、浅野径「調査統計局のなかま」、田沼肇略年譜「田沼肇アルバム」（無署名）、橋本進「田沼さんの優しさと強さ」。

第Ⅱ部「労組、民主的組織の講師・助言者活動など」は、活動年誌で民主的諸組織での幅広い活動が記録され、そのあと、次の人たちの追想がある。伊藤和子「田沼先生と私」、藤しず江「千葉県職労女性部と田沼先生」、三階泰

子「『現代社会研究所』をつくられた頃」、葛岡章「忘れ得ぬ『二つのこと』」、前田啓一郎「田沼先生から教わったこと」。

第Ⅱ部 原水爆禁止・被爆者援護・第五福竜丸保存の活動は、平和・原水禁運動の田沼肇さんとして最も知られた運動領域である。年誌のあとは次の方々の追想などである。赤松宏「『被爆者とともに』の運動」、山村茂雄「被爆者とともにあることの意味」、安田和也「『被爆者を友人に』の言葉をかみしめて」、伊藤直子「人生を決めた出会い」、「長崎の被爆者に聞く」（山村茂雄聞き取り4人）。なお、平和・原水禁運動／原爆被爆者問題資料は、祥子夫人より大原社研に寄贈され、現在は研究所所蔵資料となっている。

第Ⅱ部 日本フィル・日本フィル協会支援は、争議年誌を中心にし、その間に田沼肇先生による主に『市民と音楽』に寄せた短文が時々、収録され、田沼祥子「『ハート』を大事にした人」という追想で締めくくられている。なお、日本フィル争議関係資料はその後、田沼肇先生の仲介で大原社研に寄贈され、現在は研究所所蔵資料となっている。

第Ⅱ部 平和と革新をめざす東京懇話会の活動は、1981年から1997年までの同懇話会の活動日誌および角倉洋子「この手に革新統一を！」という一文から成っている。

なお、第Ⅱ部としては、そのあとに、竹下睿麒「田沼肇の学究生活について」、嶺学「田沼肇先生の研究業績について」がある（いずれも中見出しは略）。前者は、法政大学大原社会問題研究所研究員および法政大学社会学部専任教員となつてからの諸活動について記したもので、研究者＝田沼肇の法政大学における全活動を手際よく整理したものであり、後者は研究者＝田沼肇の研究成果・業績を簡潔にまとめたものとして、きわめて重要である。

最後に、田沼正平『二世』の息苦しさ、田沼祥子「肇さんありがとう」という身内の文章をもって終わっている。

4. 『付・田沼肇著作集 [DVD]』の内容と諸特徴

『田沼肇著作集 [DVD]』は、次のような目次内容からなっている。

田沼肇執筆目録

『田沼肇著作集』(PDF版)の発刊にあたって(藤新太郎)

[中略]

- I 調査統計論
- II 階級構成論
- III 社会政策・労働問題一般
- IV 労働運動論
- V 労働運動史
- VI 原爆被爆者問題
- VII 平和・原水爆禁止運動
- VIII 大学・研究者・学生論
- IX 時評など
- X 身辺断章

付属資料 福祉と人権を求める田沼裁判

—重度心身障害者手当の受給資格認定を求めて—

- I 田沼裁判を理解するための参考文献
- II 田沼裁判訴訟資料 [以下略]

この『著作集』では、田沼肇先生の学問的営為と社会的実践の折々にあたり執筆された「田沼肇執筆目録」から、I～Xの各分野に整理されて現物が収録されている。それに、いわゆる田沼裁判関係資料が付属資料として収められている。もっとも、この付属資料部分は田沼肇先生の直接の執筆部分とはいえない。ただ、先生の意味に基づく裁判闘争であり、いわゆる『田

沼肇全活動』の不可欠の構成部分には違いない。紙媒体に収録するには膨大であり、『著作集』[DVD版]に収録したのも肯ける。直接の執筆部分が、確認できた執筆総数1,059ファイルのうち760ファイル、7,853頁、付属資料が108ファイル、11,113頁というから、実に膨大な収録量である(藤新太郎=PDF版発刊あいさつ等による)。

読者は、PDF版の総合目次に沿って、必要なPDF版をクリックし、当該版を現物のままで読むことができ、必要ならダウンロードして、紙媒体として手元に保存することができる。その意味で、DVD版は紙媒体版とは違う新しい媒体ではあるが、必要なら紙媒体にも還元できるデジタル媒体の『著作集』という新しいタイプの出版でもある。

私自身、今となっては入手困難な戦争直後の執筆文献なども、今回、改めてお目にかかることができた。ここでは一例だけ掲げておこう。「I 調査統計論」に分類されている田沼肇「壕舎生活者の動向」(所収、東京帝国大学社会科学研究会編『起ちあがる人々 壕舎生活者・浮浪者の実態調査』学生書房版、1946年11月刊)という論文である(PDF版番号:01-002.pdf)。この当時、田沼肇先生は東大経済学部の学生であり、この小冊子の奥付によれば、東大社会科学研究会の代表となっている。敗戦直後、東大社会科学研究会による壕舎生活者の生活実態と輿論調査は、その後の東大社研を中心とする社会労働調査の先駆けを為したのものとして、その歴史的意義はきわめて大きい。

5. むすび

この紹介の最後に、田沼肇全活動・著作集編集委員会[田沼祥子・梅津勝恵・竹下睿麒・藤新太郎]編『田沼肇全活動 付・田沼肇著作集 [DVD]』の成り立ちについて、その中に記録

されていることを中心に紹介しよう。

まずは、田沼肇先生が文書・記録類を大切に保存し、その際、祥子夫人が最高の協力者であったことはいうまでもないが、還暦を期して作成された『田沼肇執筆目録（1986年4月18日現在）』が一番の基礎目録となったという。当時、大原社研所員であった田沼明子（現・五十嵐明子）さんが、木下悦子さんの協力を得て作成された。この目録を補充し、保管蔵書との照合などの仕事はその後、松尾純子さん、土屋教子さんらに引き継がれ、やがて藤新太郎さんやデジプロの人たちによって、DVD版に結実していった。

他方、1987年秋頃からパーキンソン症状を伴う進行性核上性麻痺という難病と闘いながら、1996年10月、重度心身障害者手当の受給認定を求めた、いわゆる田沼裁判闘争が開始された。この田沼裁判資料の整理は、祥子夫人だけでなく、松尾純子さんによって行われた（松

尾純子「田沼裁判資料一解題と目録」本誌2005年5月号）。また、この田沼裁判資料は、祥子夫人より大原社研に寄贈され、現在は研究所所蔵資料となっている。

第Ⅱ部を含め、お名前を挙げた人のほか、田沼祥子「あとがき」によれば、ほかにもお名前が明記され、謝意が表明されている。『田沼肇全活動 付・田沼肇著作集 [DVD]』は、実に多くの方々の長年の尽力の結晶であったことが分かる。

以上、紹介を終わるが、この刊行物が広く世に知られ、田沼肇先生の全生涯が改めて見直される契機になれば幸いである。

（田沼肇全活動・著作集編集委員会編『田沼肇全活動 付・田沼肇著作集 [DVD]』（日本評論社、2011年6月刊、本体255頁、付DVD版 [デジプロ制作]、定価9,500円＋税）

（はやかわ・せいいちろう 法政大学名誉教授、大原社会問題研究所名誉研究員）

東日本大震災による被災地の図書館・ 資料保存機関、研究者、被災者のみなさまへ

閲覧 法政大学大原社会問題研究所は、労働問題・社会問題の調査研究と同時に、専門図書館としてライブラリーを一般公開しています。所蔵図書資料の閲覧・利用を希望される方は、どなたでも利用可能です。学生証、身分証等は不要です。

研究所刊行物の無償提供 研究所刊行物で在庫のあるものについて、機関を対象に無償で寄贈します。送料は研究所で負担します。在庫リストに載っていないものについてもご希望がありましたらおしらせください。できるだけ対応します。

複写の郵送サービス 研究所では個人・機関を対象に文献複写の郵送サービスを行っています。通常1枚40円＋送料実費ですが、20枚までは無料、それ以上は法政大学の学内者料金（1枚10円）、送料無料でお受けします。

郵送貸出し 一般図書について通常は、機関を対象に行っていますが、被災地に限って研究者個人（教員・学生・一般）に対してもお受けします。3冊・1か月以内です。なお、返却の際の送料はご負担いただきます。

申込み、お問い合わせ 法政大学大原社会問題研究所資料係

〒194-0298 町田市相原町4342 Tel:042-783-2305 Fax:042-783-2311 <http://oisr.org>